

関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科 ビジネススクール秋季連続セミナー 「ファイナンス」セミナー

ファイナンスという言葉から、財務や金融といったイメージを持つ方が多いと思われます。しかし、急速な理論発展と MBA 教育の普及によって、有形、無形資産の価値評価からリスクマネジメントまで、経営の場で広く用いられるようになりました。本年度のセミナーは、今話題の統合的な資本管理のほか、ブランド評価、事業再生、証券市場分析を取り上げました。ファイナンスの醍醐味、面白さを十分に体験してください。

● 参加費無料 事前申し込み不要 ●

☆ 第1回 11月27日(木) 19:00~20:15

「統合的な資本管理とリスクマネジメント

— ERMの進展、非常時リスクへの対応について」

酒井 重人 スイス・リー・キャピタルマーケット証券会社

在日代表取締役東京支店長

☆ 第2回 12月 4日(木) 19:00~20:15

「ブランド解剖、その測定と評価の試み」

甲斐 良隆 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授

☆ 第3回 12月11日(木) 19:00~20:15

「ダイエーの再生その後」

平木 多賀人 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授

☆ 第4回 12月18日(木) 19:00~20:15

「データから読む 2009 年証券市場の行方」

岡田 克彦 関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 准教授

★ 会場はすべて、大阪梅田キャンパス 1004 号室です。

(アプローチタワー10F:大阪市北区茶屋町 19-19)

講義概要

第1回 「統合的な資本管理とリスクマネジメント

——ERMの進展、非常時リスクへの対応について」

企業や金融機関のリスクマネジメントは、コーポレートガバナンスあるいは日本版 SOX 法（金融商品取引法）により財務報告における内部統制の有効性確保の必要性が法制化される中、その重要性は経営と同義のものとして重要な位置付けがなされています。経営者およびリスクマネジメントに携わる専門家にとって、エンタープライズ・リスクマネジメント（ERM）の具体的な手法や、コーポレートファイナンスの観点からの有効な手法を、理解し適用する重要性が極めて高まっていると考えられます。当講演では、ERM・統合的資本リスクマネジメント手法の考え方に関し、その概念や理論的フレームワーク、実証研究等をレビューした上で、具体的な手法として、非常時の金融・保険的リスクへのヘッジ手法等の概要についてお話しします。

第2回 「ブランド解剖、その測定と評価の試み」

企業リソースのかなりの部分がブランドの構築、拡大に振り向けられています。IBA マーケティングセミナーで特集が組まれたことでも分かるように、消費者と企業を結ぶ重要な経営力指標の一つです。ブランドは製品(企業)に対する信頼感であり、それは品質、使用実績、宣伝等様々な要因の結晶なので、数量化による評価が難しく経営者を悩ましています。このセミナーでは、これまでの研究成果を踏まえつつ、ファイナンス理論、ゲーム理論の立場から、ブランドのモデル化、計量化を試みたいと考えています。

第3回 「ダイエーの再生その後」

ダイエーの再生は、当初は丸紅主導で行われましたが、その後紆余曲折を経て、丸紅とイオンの2社が微妙な関係を保ちながら経営にあたっています。この2社のダイエーへの投資戦略は基本的に利益相反を含み、今も多くの課題を抱えたまま業績・株価とも低迷したままです。本セミナーでは丸紅とイオンのダイエーへの係わりを買収とみて、ファイナンス理論を通してその評価と現状への提案を試みます。

第4回 「データから読む 2009 年証券市場の行方」

金融危機がここまで深刻化するとは、ほとんどの金融関係のプロ、学者は予想できませんでした。だからと言って理論を捨てて感情に走るのは危険です。センセーショナルなタイトルの事後的な解説本や、無闇に危機感をあおって著書を書らんとする輩が多いため、中には惑わされてしまう方もいるのではないのでしょうか。こういう時こそ、データと理論が頼りになります。出来るだけ客観的なデータと、理論、論理的推論を駆使して、2009年の証券市場を考えて見ましょう。

アプロースタワー
〒530-0013 大阪市北区茶屋町 19-19

